

和歌山だよい

平成22年 9月号



粉河寺 (紀の川市)

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス…P2～P8
3. お知らせ…………… P9～P13
4. ふるさと人物紹介……… P14～P15



芙蓉

「エルトゥールル号」

6月3日エルトゥールル号犠牲者の120周年慰霊式典が串本町でありました。寛仁親王殿下と彬子女王殿下の御臨席を仰ぎ、日本・トルコ両国の関係者が大勢参加しました。当日は雲一つない晴天でありましたが、1890年9月16日の夜は大変な嵐で、トルコ皇帝から明治天皇への親書をお届けして日本政府から大歓迎を受けた後、本国への帰途を急ぐトルコ軍艦エルトゥールル号が串本町大島檜野の岩礁に衝突して沈没し、司令長官オスマン・パシャ提督以下587人の尊い人命が失われました。しかし、この遭難を知った檜野を中心とする地元の人々は、とんでもない荒天の中、必死に生存者を助け、遺体を捜索し、助けられた人々には、当時の貧しい生活の中、ありったけの食料と衣類を提供して献身的に世話をしたのです。

19世紀末の帝国主義の時代にあって西洋列強に次々と領土を蚕食^{さんしょく}されつつあった当時のオスマン・トルコ帝国が日本を唯一の友として期待して送ったそのエルトゥールル号が沈んでしまったのですから、トルコの人々の悲しみと落胆はいかばかりだったでしょう。その中であって串本の人々が献身的に生存者の救出にあたってくれたという話が伝わるにつけ、トルコの人々の日本に対する尊敬の念はいやが上にも高まったはずです。トルコの人々も立派です。この恩を忘れず、このことをずっと教科書に書いて子ども達に教え続けているのです。

そして、それがあのイラン・イラク戦争の時、テヘランに取り残された日本人をトルコ航空機が救出に向かうという感動の物語につながるのです。困った時に助けてくれるのが真の友です。そして、そのことができる人は、本当に心の磨かれた人です。我々は、今よりずっと貧しかったあの明治の時代に、かくもすばらしい行為をなした串本の民の同郷人だという誇りを持つてはいませんか。そして、困った時に人を助けられるような心を磨こうてはいませんか。



「エルトゥールル号 120年慰霊式典への参加及びトルコにおける日本年関連行事」出席のためトルコを訪問し、アブドゥッラー・ギョル大統領と握手を交わす仁坂知事（関連記事 P2～P3）

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●トルコにおける日本年 和歌山県から官民あげてトルコを訪問

・エルトゥールル号遭難事件から 120 年目にあたる本年を日本・トルコ両政府は「2010 年トルコにおける日本年」と位置づけ、トルコ国内において各種の文化交流イベントが開催されています。

・9月2日、エルトゥールル号 120 年慰霊式典が串本町の姉妹都市であるメルシン市において実施され、仁坂知事、谷県会議長、前芝県会議員、田嶋串本町長等が出席しました。

・今回の慰霊式典及び文化交流事業には、県民を中心として約 180 名の民間の方々が自らの負担で、国と国との友情を確かめ合うために参加してくださいました。

・和歌山県から大勢の方々がメルシンを訪れ、慰霊式典や数々の記念行事に積極的に参加したことはトルコ側から高く評価され、日本とトルコとの友好関係を確かめ合うことができました。この友好関係を今後一層深めていくため、和歌山県とメルシン県は友好提携締結を目指すことに合意しました。



◆エルトゥールル号 120 年慰霊式典

・メルシン市にあるエルトゥールル号殉難将士慰霊碑の前で、和歌山県からの訪問団や演習訓練のためメルシン市に寄港中の海上自衛隊員を含む大勢の方々が参列し、エルトゥールル号殉難将士の慰霊式典が執り行われました。仁坂知事は、587 名の殉難将士に追悼の意を表するとともに、串本の住民の救助活動やイラン・イラク戦争におけるトルコ航空機による邦人救出に触れ、これまで築き上げてきた両国の友好関係を確実に次世代に受け継いでいくことを誓いました。



◆エルトゥールル号遺品里帰り展オープニング式典

・海洋考古学者トゥファン・トゥランル氏らによって串本町大島沖で引き揚げられたエルトゥールル号の遺品を展示する「遺品里帰り展」のオープニング式典が行われました。料理用の大鍋やベルトのバックル、金貨など、陳列された遺品について、参加者は興味深く見入っていました。遺品の展示の一角では、和歌山の美しい風景や世界遺産を紹介しています。遺品里帰り展はメルシン市で開催されるのをはじめ、トルコ国内で巡回展示される予定です。



◆友好交流事業

・友好植樹式典

メルシン市におけるエルトゥールル号120年慰霊式典の開催に併せ、日本トルコ両国の友好関係が今後一層深まることを祈念して、友好植樹式典が行われました。



・「串本通り」パレード

熊野詣の平安衣装に身を包んだ5名のトルコ人女性や、和服・浴衣などの日本の伝統的な装いをしたツアー参加者等とともに、「串本通り」をパレードしました。パレードには、海上自衛隊の幹部候補生やブラスバンドも加わり、沿道のメルシン市民から熱烈な歓迎と拍手を受けました。

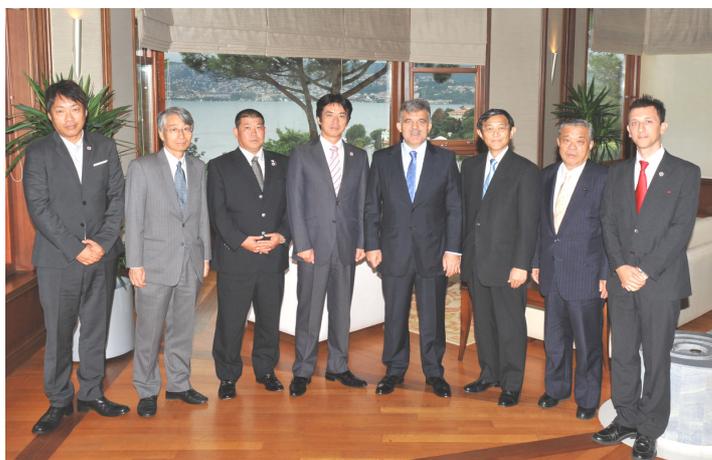


・メルシン市主催レセプション・文化交流の夕べ

慰霊式典に引き続き、メルシン市主催でレセプション及び文化交流の夕べが開かれました。文化交流の夕べでは、和歌山から、串本町の和楽器演奏グループ「式音俱」（ジオング）による演奏、串本町トルコ文化協会によるトルコ民族舞踊、りら創造芸術高等専修学校の生徒及び関係者による日本舞踊や能、創作ダンスを披露していただきました。メルシン市からはフォークダンスグループによる民族舞踊が披露された他、海上自衛隊とトルコ海軍のブラスバンドによる演奏も行われ、参加者はお互いの国の文化に触れ、興味深く鑑賞していました。

◆大統領表敬訪問

・平成20年6月に国家元首としては初めて本県を訪問されたアブドゥッラー・ギュル大統領を仁坂知事、谷県議会議長、串本町長等が表敬訪問しました。



・仁坂知事は、大統領との再会を喜ぶとともに、日本とトルコとの友情について語りあい、「困ったときに助け合える本当の友人の関係を末永く続けていきたい。」と発言。大統領も大いに賛同されました。

・また、トルコ航空に開空便の増便の要請を行ったことを説明したほか、串本町が中心となって進めているエルトゥールル号とテヘラン救出事件の映画化について、大統領から最大限協力するとの暖かい応援の言葉がありました。

●第62回全国植樹祭の開催日決定！

- ・「第62回全国植樹祭」の開催日が、平成23年5月22日（日）に決定しました。
- ・第62回全国植樹祭は「緑の神話 今 そして未来へ 紀州木の国から」を開催テーマに、田辺市の新庄総合公園を式典会場とし、県内各地に地域植樹会場を設けて開催することとしています。
- ・今後とも、先人が守り育ててきた本県の豊かで多様な森林と木の文化を、より良い姿で未来に引き継いでいくために、県民の皆様が、緑を慈しむ気持ちをさらに高めていただく機会となるよう、万全の準備を進めていきます。
- ・9月14日には、県庁正面に全国植樹祭開催日までをカウントするカウントダウンボードを設置し点灯セレモニーを行いました。（写真）
- ・県内の植樹祭開催は、1972年の那智勝浦町以来39年ぶり2回目となります。全国植樹祭を成功させるため、一層のご支援とご協力をお願いします。



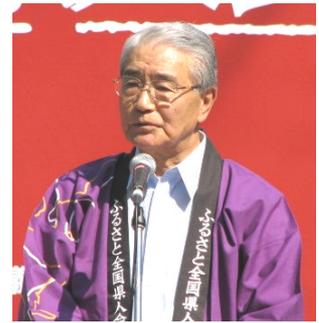
●先駆的産業技術研究開発支援事業の採択事業が決定！

- ・和歌山県では、今年度からの新政策として、全国あるいは海外で今後高いニーズが見込まれる先駆的な産業分野で、県内企業が有する技術シーズを活用して取り組む研究開発に対して支援を行う「先駆的産業技術研究開発支援事業」に取り組んでいます。
- ・このたび、学識経験者からなる審査委員会での審査を経て、以下の7件の採択を決定しました。
- ・今後、採択案件の事業化を支援していくとともに、引き続き県内にある「先駆的」技術シーズの更なる発掘・育成を図り、県産業の高度化を推進していきます。

事業所名	採択事業	先駆的分野
アイエムティー(株)	液晶パネル両面同時クリーニング装置の開発	ロボット・組立
スガイ化学工業(株)	高屈折率材料としてのジナフトチオフェン誘導体の開発と事業化	化学・ナノ
(株)日本化学工業所	光重合開始剤に関する改良及び新規素材の開発	化学・ナノ
紀州技研工業(株)	金属ナノ粒子の抽出及び分散化による原料インクをつくる研究開発	化学・ナノ
中野BC(株)	青柿の機能性と渋味低減剤の開発	食品
築野食品工業(株)	フェルラ酸製造において副生するフィトステロール(PS)とトリテルペンアルコール(TA)の有効利用に関する研究	エネルギー・環境
(株)サイバーリンクス	クラウド型流通大規模データ分析システムの開発	IT

●名古屋開府400年記念 ふるさと全国県人会まつり2010開催

・9月11日、全国県人会東海地区連絡協議会が主体となり、名古屋開府400年とふるさと全国県人会まつり10回目の節目を記念して「ふるさと全国県人会まつり2010」が、名古屋市の「もちの木広場」で開催されました。



・山口春三全国県人会東海地区連絡協議会代表幹事（東海和歌山県人会会長）から主催者挨拶があり、続いて高尾愛知県副知事並びに仁坂知事が来賓挨拶を行いました。

・仁坂知事は、白浜でパンダの双子の赤ちゃんが誕生して計8頭になったことや和歌山電鉄のたま駅長を紹介して和歌山を大いにPRするとともに、「同じ徳川御三家である紀州和歌山の知事として、名古屋開府400年は嬉しい。」と祝辞を述べました。



・「みなべ町の梅干し」や「かつらぎ町のトマト・ピオーネ」、「北山村のじゃばら製品」の販売ブースの設置や「串本町の正調みさき節」のステージ披露、フルーツ王国かつらぎ町のゆるキャラ「かきおうじとその仲間達」が初お目見えするなど、大いにまつりを盛り上げました。

●県内の「道の駅」が23駅に

・8月9日、東牟婁郡那智勝浦町浜ノ宮地内の「なち」および東牟婁郡古座川町小川地内の「瀧之拝太郎」が、新たに「道の駅」として登録されました。



・道の駅「なち」は、世界遺産に登録された那智山への玄関口にあり、新鮮な地元農産物や地域特産品の販売や温泉入浴施設「丹敷(にしき)の湯」と世界遺産の熊野那智を体感できる「世界遺産情報センター」など、地域の人々と来訪者が共に集い交流できる施設です。



・道の駅「瀧之拝太郎」は、日本屈指の清流「小川」にある景勝「瀧之拝」に隣接しており、ニホンミツバチのハチミツや鮎、地元野菜等の直売所を備えるとともに、藤祭り（5月）や灯籠祭り（8月）など四季折々の祭りや行事の中心地となるなど、自然の営みや地元の文化を大切にした奥熊野の良さが満喫できる施設です。



・道の駅「なち」は平成22年11月供用予定、道の駅「瀧之拝太郎」は平成22年12月供用予定となっておりますので、お越しの際は、是非お立ち寄り下さい。

● 「シカの捕獲頭数制限の撤廃！」 シカの保護から思い切った捕獲へ

・ 本県の鳥獣による農作物被害は約半分がイノシシによるものであり、次いでシカとなっていますが、特にシカの被害は増加傾向にあります（図1）。イノシシについて頭数制限はなく捕獲推進されてきました。しかし、シカについては国において捕獲制限が実施され、保護されてきた結果として個体数が著しく増加するとともに分布域が拡大し、それに伴い農林業の被害対策及び自然環境の保全対策の必要性が一段と高まっています。

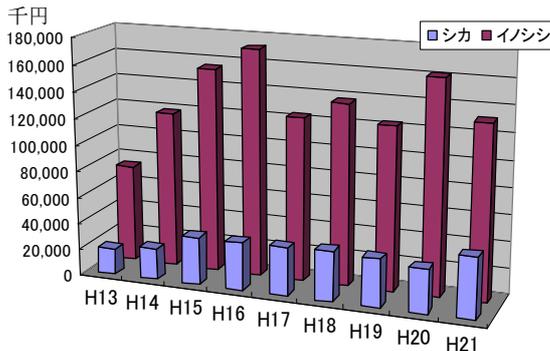


図1 農作物被害の推移 (シカ、イノシシ)

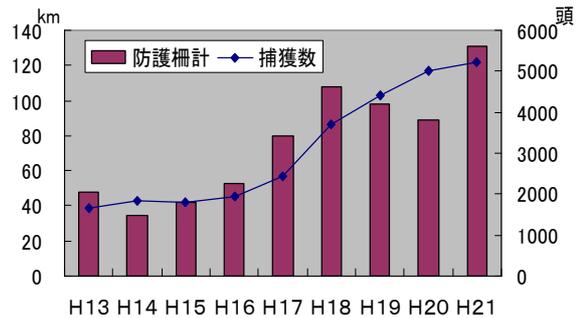


図2 シカ対策 (防護柵設置長、捕獲数)

・ 県では、防護柵の設置を推進するなどして被害防止に努めてきましたが（図2）、平成21年度の生息状況調査の結果、31,000頭以上の生息が推定され、シカの生息自体を大幅に削減せざるを得ない状況に陥っています。

・ そのため、県では農作物被害などの軽減と自然環境の保全（山を守る）を図ることを目的として当分の間、多数のシカを捕獲するため、この度狩猟における捕獲頭数制限の撤廃に踏み切ることにしました。今後は、今回の緩和措置等により、高い捕獲圧を保ち、その生息数をモニタリングしながら、農業被害の少なかった平成6～7年の生息数8,700頭の目標を目指します。

● 「企業の森」事業に1団体が参画し、55箇所

・ 9月7日、和歌山市に工場がある「本州化学工業株式会社」が「企業の森」事業に新たに、参画することとなり、県庁で調印式を行いました。（写真）

・ 本州化学は、日本で初めて合成染料アニリンの国産化に成功した由良浅次郎氏が1914年に創業した化学会社です。長年にわたり培ってきた技術力・開発力でフェノール合成技術ではパイオニア企業の地位を築いています。

・ 「企業の森」は県内で現在54箇所あり、今回の「本州化学の森・日高川（日高川町）」の参画で55箇所となりました。「本州化学の森」は、今後10年に亘り、育林していく森林保全活動で、地元住民との交流も計画されており、都市と地方の交流による地域活性化に寄与するものと期待しています。和歌山県長期総合計画では、100箇所に増やす目標を掲げています。



●映画「SAIKA」～雑賀の孫市～の制作について

・9月13日、雑賀孫市を題材とした映画「SAIKA（仮題）」を撮影予定（来春撮影・公開未定）の山口雅和監督らが和歌山県内でのロケやPRについての協力を求めるため、仁坂知事を訪問されました。

・山口監督は、映像製作集団「和楽」代表で、ご当地映画を主に撮影し、映画「或る探偵の証明」は、ゆうばり国際学生映画祭、時代劇「友の夢」は、ハンブルグ日本映画祭に招待作品として上映されています。

・映画「SAIKA（仮題）」では、織田信長よりも早く火縄銃に目をつけ、恐れられた鉄砲衆が、大坂の本願寺側に付き、信長を苦しめ、さらには狙撃をしたという伝説を、最新のCG技術等で再現し、戦国時代のヒーローとして描かれます。

・山口監督は、「戦国時代のスナイパー「孫市」は本当にかっこいい人物です。和歌山県の皆さんにも自慢に思ってもらえる様な映画を撮りたい」と話し、知事は「是非良い映画を撮って頂き、一緒に孫市をPRしたい」と一緒に協力していくことを約束しました。



●平成22年度文化芸術ふれあい事業を開催！！

・和歌山県では、本年度から、文化芸術に触れることの少ない地域の住民や子ども達に、実際にほんものの文化芸術に触れる機会を確保し、文化芸術の創造、鑑賞・評価、支援活動を行う将来の担い手を育成することを目的とした「文化芸術ふれあい事業」を開催します。

- 九度山町：和歌山雅楽会による雅楽公演等
（10月8日 九度山中学校体育館）
- すさみ町：劇団風の子による演劇公演等
（11月27日 周参見小学校体育館）
- 有田市：桂枝曾丸氏、桂三歩氏、桂福矢氏等による古典落語公演
（平成23年1月22日 有田市文化福祉センター）



劇 団



雅 楽

●和歌山県知事選挙の日程が決まりました

・ 8月24日に開催された和歌山県選挙管理委員会において、本年12月16日に任期を迎える和歌山県知事選挙の日程が決定されました。

・ 知事選挙の告示日は11月11日（木）、投票日は11月28日（日）です。

● 双子の赤ちゃんパンダ誕生 ～日本一のパンダファミリー～

・ 8月11日、白浜町「アドベンチャーワールド」で、ジャイアントパンダの双子の赤ちゃんが誕生しました。現在、赤ちゃんの名前を募集しています。

・ 母親パンダの良浜（ラウヒン）は赤ちゃんを交互に抱いて授乳を始めています。今回の双子パンダの誕生で、同園にいるパンダは計8頭となりました。これは日本一のパンダファミリーです。

・ 現在は、1日2回の公開体重測定時に、元気な姿を見ることが出来ます。是非お越し下さい。



●街道てくてく旅。「熊野古道をゆく（秋編）」の放映が始まりました！！

・ NHKのBS放送で大好評だった春編に続き、元テニスプレーヤーの森上亜希子さんが旅人となる「街道てくてく旅」（秋編）の放映が9月13日から始まりました。

・ 秋編では、田辺市の道分け石から海岸沿いの大辺路ルートをつとまり熊野三山を詣で、伊勢神宮までを歩きます。放送時間は10月29日までの毎週月曜～金曜日、午前8時～8時15分です。是非ご覧下さい。



◇ 泣き相撲・笑い祭

10/10(日)

・海南市「山路王子神社」の名物神事が「奉納花相撲」、通称「泣き相撲」です。県の無形民俗文化財に指定されています。

・「土俵の土を背につけると元気に育つ」との言い伝えがあり、交替に土俵に仰向きに倒され仲良く一勝一敗。勝っても負けても大泣きする子どもたちの可愛らしさに場内は和やかな笑い声に包まれます。

【場 所】 山路王子神社(海南市下津町市坪269)

【日 時】 10月10日(日) 12時30分～

【問い合わせ先】 山路王子神社 TEL:073-494-0455



取組中の子どもたち

・日高川町「丹生神社」の例大祭で、こちらも県無形民俗文化財にも指定されています。

・顔を白く塗りカラフルな衣装を着た“鈴振り”が『笑え～笑え～ 家(永) 楽じゃ世は楽じゃ～』とはやし立てながら神輿行列を先導し、参拝客も思わず笑いを誘われる奇祭です。

【場 所】 丹生神社(日高郡日高川町江川1956)

【日 時】 10月10日(日) 9時～17時

【問い合わせ先】 日高川町産業振興課 TEL:0738-22-2041



◇ 第10回和歌浦ベイマラソンwithジャズ

10/24(日)

・日本初のミュージックマラソンとしてスタートした「和歌浦ベイマラソンwithジャズ」は、今年で10回目を迎えます。

・1万人を超えるランナーが、ジャズ演奏を聴きながら万葉集にも詠まれた美しい景色の中を走り抜けます。昨年は女性ランナー率が35%と、全国トップクラスの高さとなっています。

・ハーフマラソン・10km・5km・3km・2kmのコースが設定されています。チーム対抗の団体戦(4人1組)もあり、ユニークな仮装ランナーも多数参加します。

【日 時】 10月24日(日) 9時30分～13時05分

【場 所】 和歌山マリーナシティ(和歌山市毛見)

【問い合わせ先】 和歌浦ベイマラソンwithジャズ実行委員会
事務局 TEL:073-435-1364



ふるさと和歌山応援寄附の御案内

ふるさと和歌山応援寄附の取組を始めて今年で3年目になります。お陰をもちまして、多くの皆様から温かい寄附と力強い応援のメッセージをいただいております。厚く御礼申し上げます。

寄附金税制につきましては、税制改正により今年度から所得税寄附金控除の適用下限額が5千円から2千円に引き下げられました。そのため、所得税にあつては2千円を超える金額について、一定額を上限として軽減を受けることができるようになりました。(個人住民税にあつては、今までと変わらず5千円を超える金額が対象です。)

また、来年度、和歌山県で開催される全国植樹祭の開催準備を寄附のメニューに追加しております。

ふるさと和歌山応援サイト トップページ



ふるさと和歌山応援寄附について詳細は、和歌山県のホームページ上の「ふるさと和歌山応援サイト」をご覧ください。下記問い合わせ窓口までご連絡ください。

これからも和歌山県を想ってくださる皆様と共に成長していき、元気な和歌山県の創造に努めていきますので、引き続き和歌山県を応援してくださいませよう、よろしくお願いいたします。

○本年12月末までに寄附していただければ、来年の確定申告により平成22年分の所得税及び平成23年度の住民税について控除を受けることができます。

○ふるさと和歌山応援サイト(URL <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>)
ふるさと和歌山応援サイトでは、寄附の申し出時に公表に同意していただいた方のお名前やメッセージを掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

お問い合わせ・申込窓口

〒640-8585

和歌山市小松原通一丁目1番地

総務部総務管理局税務課

担当 塩路、塩崎

電話 073-441-2186(直通)

FAX 073-423-1192

E-mail: furusato-ouen@pref.wakayama.lg.jp

お問い合わせ窓口

〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-3

都道府県会館12階

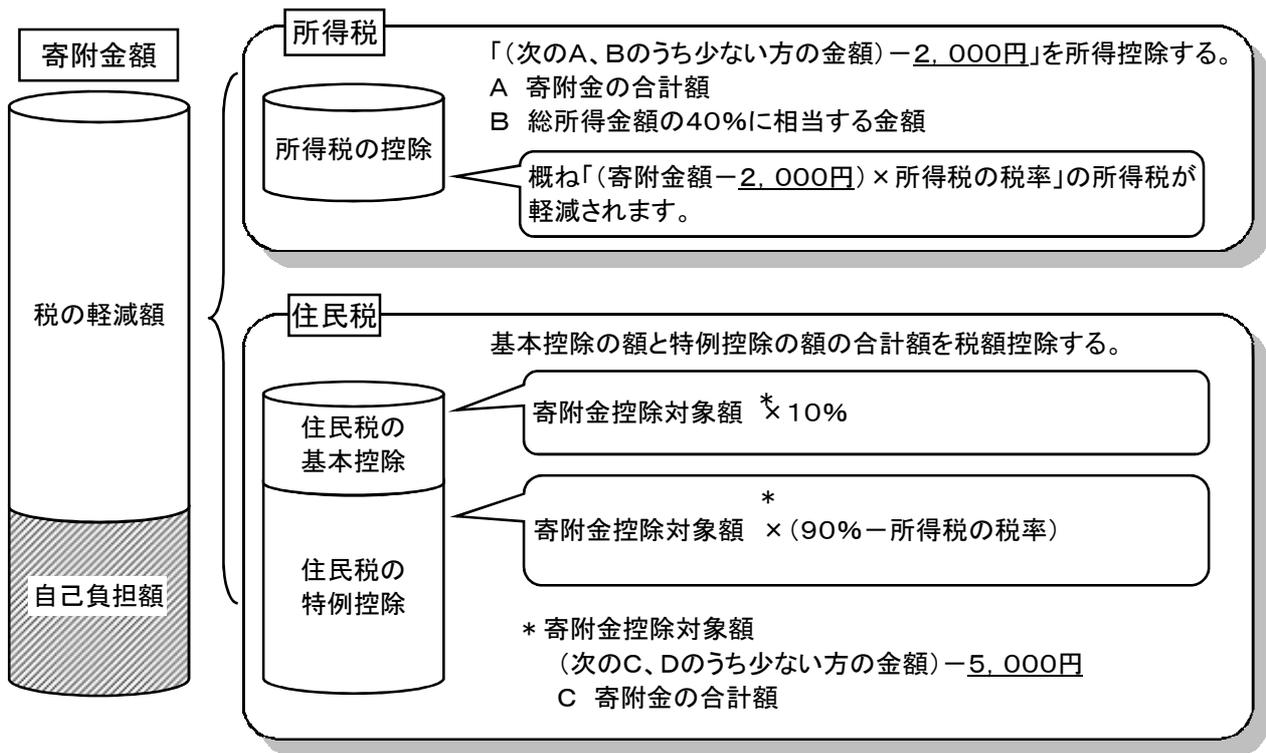
和歌山県東京事務所

担当 谷

電話 03-5212-9057

FAX 03-5212-9059

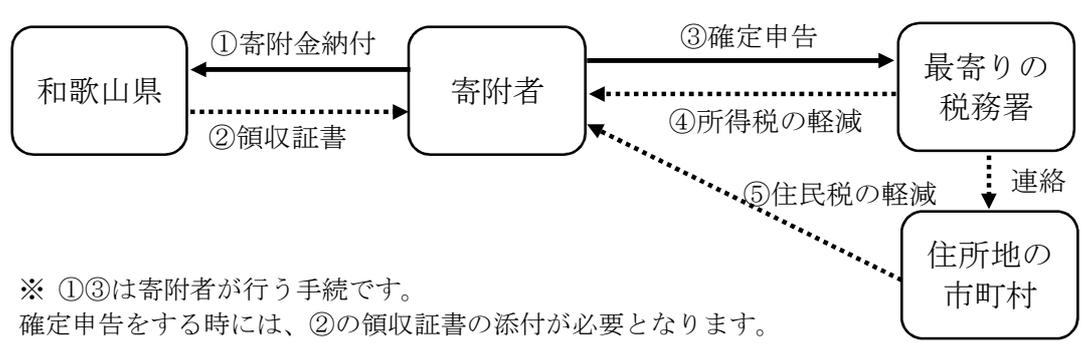
寄附金控除の概要



自己負擔額を最小に抑える寄附金額の上限額の目安は…

住民稅所得割額の10% ÷ (90% - 所得稅の稅率) + 5,000円

和歌山縣への寄附に伴う手続の流れ



平成22年1月から12月の間に寄附をした場合、確定申告を行うことにより、

④ 所得稅は、平成22年分の所得稅が輕減（給与所得者の場合は還付）されます。

⑤ 住民稅は、平成23年度分の住民稅が輕減されます。



和歌山の旬のこだわり情報をお届けします

醤油発祥の地 わかやま

鎌倉時代のこと…和歌山県由良町の名高いお寺である興国寺の開祖「法燈国師（ほっとうこくし）」によって、金山寺味噌（きんざんじみそ）の製法が中国から伝えられました。その後、まもなく由良に近接する現在の湯浅町周辺で醤油作りが始まったとされています。

きっかけとなったのは、味噌作りをしているうちに味噌樽の上部や底に、独特の風味をもつ汁が溜まることに職人が気づいたことでした。この味噌の“たまり”が醤油の原型なのです。

湯浅の港から日本全国へ広がり、今日では「ソイソース (Soy sauce)」として世界各地の食卓にもものぼっている醤油。今や世界の食文化に欠かせないものとなった醤油の発祥地が和歌山県だったとはみなさんご存じでしたでしょうか？

さて、今回はその発祥地となった湯浅町の醤油にまつわる歴史をご案内しましょう。ナビゲーターは、江戸幕府8代将軍・徳川吉宗さんです！

昔ながらの手づくりの味

わしが江戸幕府8代将軍を務めた徳川吉宗じゃ。
ここからは和歌山出身のわしが湯浅町について紹介しよう。
ふおっふおっふおっ…。





江戸期には、我々紀州徳川藩の保護を受け、湯浅町のあたりでは100軒近い醤油屋が軒を並べ、たいへん栄えていたのじゃ。平成の今では、往時に比べ生産量こそ激減したものの、手づくりによる昔ながらの天然の味はかえって珍重され、遠くから求めに訪れる人も多くいるのじゃよ。

食べる味噌はいかが？

金山寺味噌は、醤油のルーツとなった僧侶が持ち帰った「食べる味噌」。米、大豆、麦に白瓜、丸茄子、しょうがなどの“夏野菜”を贅沢に使っていることが、美味しさの秘密なのじゃよ。

食べるラー油の次は、**食べる味噌ブームの到来**かな！？



『湯浅伝統的建造物群保存地区』を歩く



醤油醸造など商工業を中心に発展した湯浅の町並みは、平成18年12月19日、全国初の醤油の醸造町として、国の『重要伝統的建造物群保存地区』に選定されたのじゃ。その重厚な歴史的風致を今日によく伝えていることから、我が国にとって価値が高いと評価されたからなのじゃよ。観光等に関するお問い合わせは湯浅町観光協会へ！

(TEL0737-63-2525 湯浅町役場内)

和の「将軍プリン」新発売

7月15日から和歌山県内8店で、湯浅の醤油を使った和風プリン「将軍プリン」(1個280円)が新発売！

県菓子工業組合青年部に所属する有志が「和歌山ならではの、他県に誇れる御菓子を作りたい」と開発したのじゃ。商品名は、わし(徳川吉宗)にちなんでつけられたのじゃよ。ぜひ、ほんのりと香ばしい**醤油味**のプリンをご賞味あれ♪9月上旬までの限定発売予定じゃ！



さて、今日は醤油のこと、湯浅町について勉強になったかな？では、また会う日まで…さらばじゃ！

もしかして…このプリン of 宣伝のために今日は登場して下さったのかな??何はともあれ、徳川吉宗さん本日はありがとうございました。

ふるさと人物紹介（華岡青洲）

和歌山県には、和歌山の発展に尽くした歴史上の先人がたくさんおられます。そうした方々の功績をご紹介させていただきます。

～世界で初めて全身麻酔手術に成功した医聖～

華岡 青洲（はなおか せいしゅう）1760～1835年 紀の川市生まれ

・手術時に患者の痛みをとり、のぞくために、なくてはならない麻酔薬。笑気、エーテル、クロロホルムによる麻酔が欧米で始まったのは1840年代。それよりも40年余り前、日本の今の和歌山県紀の川市で、麻酔薬が作られ、世界初の全身麻酔手術に成功していました。成功したのは、紀の川市西野山（平山）の華岡青洲です。



・青洲は、祖父、父が医者という家に生まれ、子どもの頃から苦しむ患者を見てきたので、早く医者になり救ってあげたいと思うようになりました。23歳のとき京都へ勉強に出て、古代中国の医師、華佗（かた）が「麻沸散（まふつさん）」を使って痛みをなくしてから、手術をしたことを知ります。

・3年後、帰郷した青洲は、医者として診察をしながら薬草を使い、麻酔薬を研究し、動物実験に成功。

・そして、妻の加恵と母の於継（おつぎ）が青洲に人体実験を願い出て、何度も分量を調整し、完成しました。青洲が作った麻酔薬「通仙散」は、何千もの薬草の中から6つの薬草（マンダラゲ・トリカブト・ビャクシ・トウキ・ナンセイシャ・センキョウ）を突きとめ、配合がわかり完成したもので、作り始めてから20年が経っていました。1804年10月13日、全身麻酔による乳癌手術に成功。青洲の努力の他に、家族の協力があったの快挙でした。（和歌山県立医科大学の校章は、通仙散の原料であるマンダラゲの花をデザインしたものです）

・妹たちは機織りをして、京都での青洲の学費や帰郷してからの生活を支え、妻の加恵も機織りや薬草を育て、青洲を助けました。（妹たちは30代40代の若さで病気で亡くなり、加恵は人体実験で失明します。）

・1802年、紀州藩主 徳川治宝に見出された青洲は、武士の身分になることを許され、「藩医として城に来てほしい」と言われましたが、「村人たちの病気を治せなくなるから」と断りました。（後に平山村に暮らしながら、登城することを許されました）

・「春林軒（しゅんりんけん）（右写真）」は、青洲の住居・病院・医塾で、そこには全国から延べ2,000人が集まり、学びました。（現在整備され、「青洲の里」にあります。）また、米シカゴ市にある国際外科学会の外科歴史博物館「日本外科殿堂」には、その業績を説明するコーナーが設けられ、青洲を顕彰しています。



- ・華岡青洲が卒学生に医師としての心構えを論じた自作の4行詩があります。

華岡青洲自作の4行詩（右）：「自分は何の富貴栄達も望まない。竹垣を巡らし、野鳥の声する景色のよい田舎に住んで、ひたすら瀕死の病人が回生する医術の奥義を極めたい。」

竹屋蕭然鳥雀喧
風光自適臥寒村
唯思起死回生術
何望輕裘肥馬門

- ・青洲の誠実な人柄が偲ばれます。
- ・また、地域の住民が干ばつと税金に苦しめられている時、私財をなげうって、ため池（垣内池）を拡張し、農民を干ばつの苦しみから救いました。

- ・今年、数々の功績を残した、和歌山が誇る、華岡青洲の生誕250年を迎え、記念イベントが開催されます。

医聖「華岡青洲」生誕250年記念イベント！

記念式典・シンポジウム

～華岡青洲の足跡をたどる～

日時：10月23日（土）13：30～16：30

場所：粉河ふるさとセンター

内容：記念式典（13：30～15：00）

紀の川市上名手小学校の学習発表

華岡青洲顕彰標語・作文受賞者の表彰等

シンポジウム（15：00～16：30）

テーマ「医聖華岡青洲を語る」

- ・特別講演 畑埜 義雄 和歌山県立医科大学麻酔科学教室教授
(医聖華岡青洲顕彰会理事)

- ・パネルディスカッション

コーディネーター 仁坂 吉伸 和歌山県知事

パネリスト（五十音順）

有吉 玉青 作家、大阪芸術大学教授

(「身がわりー母・有吉佐和子との日日」で坪田譲治文学賞受賞)

板倉 徹 和歌山県立医科大学学長 (医聖華岡青洲顕彰会副会長)

畑埜 義雄 和歌山県立医科大学麻酔科学教室教授

(医聖華岡青洲顕彰会理事)

古田 求 脚本家 (NHKドラマ「華岡青洲の妻」の脚本を手掛ける)

*入場料は無料です。

～編集後記～

今月号の「ふるさと人物紹介」に掲載しました、和歌山が誇る医聖「華岡青洲」は、今年で生誕250年を迎えます。

「華岡青洲」の医療に対する理念として、「内外合一（ないがいごういつ）」と「活物窮理（かつぶつきゅうり）」があります。

「内外合一」とは、「手術を行うには、内科、すなわち患者の状態を詳しく診察した上で治療すべきである。」という意味であり、「活物窮理」とは、「治療の対象は生きた人間であり、一人一人が異なる特質を持っている。そのため、治療するには、人体についての基本理論を熟知したうえで、深く観察して患者やその病の特質を究めなければならぬ。」という意味です。

この2つの言葉に共通するのは、「徹底した現場主義」、「しっかりとした基本の大切さ」、「物事の本質を見極める観察力の重要性」であると思います。

私たちが色々な課題解決に向けて施策を考え、取り組んでいく際、常に現場の状況を十分に把握することが重要です。その問題点をきちんとした知識、理論で分析していくことが必要です。

私たちは、偉大な郷土の先人が残した素晴らしい言葉を胸に刻み、日々頑張っていきたいと思えます。

ご案内のとおり、10月23日（土）に紀の川市「粉河ふるさとセンター」において、「華岡青洲生誕250年記念イベント」を開催します。皆さんも、ご都合がつけば、是非お越し下さい。

9月に入って、未だ、全国各地で最高気温更新のニュースが流れています。皆様方には、お体をご自愛いただきたいと存じます。

知事室秘書課長 藤川 崇

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

（下記のFAX（様式自由）、E-Mail等をお願いします。）

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2010年（平成22年）9月 NO.30

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022